



令和5年2月吉日
発行責任者 藤野 宣之

北里大学小児科同窓会会報 Vol.27





このたび新同窓会会長に就任しましたので、ご挨拶申し上げます。

私は大学や関連病院での診療を離れてから 15 年ほど経過しております。今までにお会いしたことのない諸先生方もいらっしゃると思いますので、改めて自己紹介をさせていただきます。

1956 年、東京生まれの 66 歳、北里大学医学部 6 回生です。1981 年に小児科に入局し 3 年目から小児循環器を専攻いたしました。相模野病院、国立循環器病センター、北里救命救急センター指導

医、国立横須賀病院、相模原協同病院と経験を積み、2007 年に相模原で開業致しました。現在は相模原市医師会の各種委員長や日本小児科学会の代議員などを拝命しています。

さて、現在の小児医療情勢ですが、自分がレジデントとして研修していた時とは比較にならないぐらい大きく変化しています。さらに世界規模での新型コロナウイルスの台頭、深刻な少子高齢化の加速度的な進展が加わり、過去に計画した医療体制では対応できない状況に陥っていることは皆様も実感されていることでしょうか。このような社会背景の中だからこそ、同じ北里大学で勉強した新旧の仲間たちが、その絆が途切れることなく過去と現在をつなげていくことがますます重要であることは言うまでもありません。失ってはならないことを大切に、時代に即した同窓会へ改革していきたいと考えています。

同窓会の目的は卒業生や現役生の親睦と互助ですが、今後も多くの後輩小児科医が巣立ってゆくために、先輩医師たちが何をサポートしていくかとも考えることも大切だと思います。医学部や大病院、またこれからの小児医療体制についてなど情報を迅速に共有して相互に援助していきましょう。また全国の各地域に居住されている同窓生の方々は、様々な進路で御活躍されています。将来を考える若手の医師たちにもご経験をお示ししていただけるよう、新理事役員の方々とネットワークの整備を検討していく予定です。

最後になりますが、皆様のご健勝をお祈りするとともに、北里大学医学部小児科が今後も発展していくためにご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



教授 石倉 健司



令和4年の北里大学小児科を振り返ります。今年度も様々な変化のあった一年でした。

まず令和4年度は、4人の新人を迎えることが出来ました。自分が着任してから、毎年多様なバックグラウンドをもつ方達が入局してくれて、それが活力や良い意味での変化をもたらしていると思います。今年も個性あふれる魅力的な人材が加わっており、将来を大いに期待している所です。是非本号の各人の紹介もご一読ください。

そして長引くコロナ禍の最中ではありますが（執筆時点で、第8波入りが議論されています）、しかし確実に変化も見られています。多くの学会で、現地開催が主で、Webがオプションという扱いになっているのはご承知の通りです。私も9月に3年ぶりの海外出張が実現しました。米国アトランタ、エモリー大学のGreenbaum先生には3年前から招待されていたのですがようやく実現し、私が永年進めている小児慢性腎臓病のコホート研究やaHUSの新規治療薬の国際共同治験の事など、様々な情報共有を行いました。そしてカナダでは国際小児腎臓学会の学術集会に参加し、改めて海外の医師との交流の意義や楽しさを実感しました。是非来年以降、若手の先生の海外出張の機会を設け、それが彼らの良いモチベーションになればと思っています。

海外という意味では、今年小児科はマレーシアからの留学生Tan Sun Mee先生を迎え入れました。留学生の受け入れはコロナ禍のため長らく中断されており、大学病院としても数年ぶりの事です。この同窓会報でもTan先生の自己紹介があると思いますが、とくに新生児の管理を学ぶ目的で我々の大学病院小児科を選んでくれました。優秀な先生が数ある留学先から我々を選んでくれたのは非常に嬉しく、誇らしいことです。是非我々を選んで良かったと思ってもらいたく、現在中西秀彦先生を中心に熱心に教育してもらっています。Tan先生も非常に意欲的でかつコミュニケーション力のある方なので、医師のみならず大学の事務の方とも早速仲良くなり、熱心に勉強しつつ日本滞在自体を楽しんでいるようです。そして定期的に行われる英語でのディスカッションが、若手の刺激になる事も大いに期待している所です。

さらに人事面では、野々田豊先生が准教授に、伊藤尚志先生が診療准教授に昇任されました。もとより医局の中心メンバーであるお二人ですが、今後ますます活躍されることを大いに期待しています。さらに伊藤先生は今年から感染管理室（副室長）、安藤寿先生は医療の質・安全管理室のメンバーとして、それぞれ小児科と兼任で活躍されています。現在病院を挙げて令和5年3月の病院機能評価受審の準備を行っていますが、改めて感染管理と医療安全は病院の守りの要だと感じま

す. その二つの主要なセクションに小児科の医師が中心メンバーとして活躍していることは、大いに頼もしく感じており、また随時貴重なフィードバックをもらっています. これは確実に小児科の総合力の底上げにつながっていると感じています.

末筆となりますが、同窓会の方々には日頃から我々小児科を応援くださり深く感謝しております. また小児科の活動の根幹は若い力の加入と、彼らへの教育です. その点につきましても同窓会の方々に、様々な形でご支援頂いており本当にありがとうございます. 今後も我々北里小児科への変わらぬご支援を頂ければ幸いです.

臨床修練生が当院 NICU で研修中です



Tan Sun Mee

Hi, I am Dr Tan Sun Mee from Malaysia, currently in my final year of Neonatology Fellowship. Firstly, I would like to express my heartfelt thanks for the warm welcome and hospitality I received from all the staff in this hospital. It made me feel at home despite being away from my family. I am honoured that I am able to train in NICU of Kitasato University Hospital. It is definitely a great privilege for me learn from the experts in neonatology as Japan is one of the countries that has the best neonatal care and excellent neonatal outcomes. In my year here, I would learn and broaden my knowledge and skills in managing micropreemies, hemodynamic study of the newborn and also to be involved in research pertaining to the field of neonatology. This year will also be a very precious opportunity for me to experience the rich culture, magnificent nature and the magical city life of Japan.

I would like to express my special thanks to Dr Nakanishi, my supervisor and mentor, Dr Ishikura, Head of Pediatric and all the staff that have been helping to facilitate my training here.

I will bring home to Malaysia these wonderful memories, experiences, friendship and knowledge that I have gained here.

Thank you.



追悼 武田 信裕 先生

「武田信裕先生を偲んで」



NOBU よ、永遠に

(医) 栗原小児科内科クリニック

栗原 潔 (13 回生)

2022年7月1日、武田信裕先生（以下NOBUとする）の訃報の知らせが届きました。まだ57歳、覚悟していたとは言え、早すぎる逝去に喪失感を覚えざるを得ませんでした。私は、学生時代に部活と遊びに明け暮れてだめだめ学生であり、ゆっくり大学を卒業しました。つまり学生時代は、優秀なNOBUとは全く接点がありませんでした。

私が、NOBUと出会ったのは小児科の医局に入局してからです。歳はかなり離れてはいましたが、なんでも話をしてくれたし、意見もしてくれたし、慰めてくれたし、勇気づけられたりもしました。とても穏やかで、本当にやさしさに満ちあふれた男でした。



2016年3月5日 チーフ会 NO.2

私が、病棟チーフの時に患者の治療法で悩んでる時に、他病棟のNOBUに相談することが、多々ありました。患者の身になって、何をし
てあげることがよいのかを一緒に考えてくれたことを思い出します。また、私が、九州に
帰ることになった時の送別会で「くりさんが、
いなくなると寂しくなるよ」と泣いてくれて、
その気持ちが嬉しく、感激したことを覚えて
います。同期として研修医時代を共に過ごし、
小児科医を目指せたことは、私にとって貴重
な経験でしたし財産となりました。

2017年4月、日本小児科学会（東京）の時

に、上田康久先生と私は、NOBUから悪性腫瘍の存在を
打ち明けられました。その時からNOBUの腫瘍との闘い

が始まりました。摘出困難な部位であったため抗がん剤や放射線治療が中心となりました。発生部
位がまれな腫瘍であり、治療に決まったプロトコルはなく、手探りでの治療であったようです。一
時的に、腫瘍は縮小し喜んだのも束の間、抗がん剤の副作用のために、途中で治療を中断すること
もありました。そして、2021年3月、余命6か月の宣告を受けました。その時も気丈に「くりさ
ん、僕は、まだあきらめないよ」と言っ、千葉の亀田総合病院に転院、腫瘍の一部摘出を行いました。
千葉まで通院するだけでも大変なのに辛い抗がん剤治療を行いながら、自院の診療もこなして
いて、NOBUは、まるでスーパーマンのようでした。治療の内容、治療後の副反応による状態、
腫瘍の変化、体調の変化など、ラインでのやりとりを5年間続けてきました。NOBUの凄いところ
は、一切、弱音を吐きませんでした。とても辛かったと思いますが、頑張り抜いたのはさすがに
NOBUだなと感心するばかりです。そんな体調が悪い状態でも私たちのことを気遣い、逆に私たち
のほう励まされることも多く、最後の最後まで私たちの心情を考えてくれて、ラインを送り続け
てくれました。NOBUとの思い出は、まだまだたくさんあり過ぎてここでは書ききれません。私た
ちは、誰にでも優しく、心配りが行き届いていた男を、絶対に忘れません。私たちの心の中
に、永遠にNOBUは、生きています。

NOBU、お疲れ様、やすらかに眠りください。

合掌



ありがとう、武田信裕君！

うえだこどもクリニック

上田 康久（14 回生）



武田先生と私は、共に神奈川県出身、実家は開業医、県立高校出身(彼は小田原高校、私は厚木高校)、北里大学入学と卒業も同期である。しかし、大学時代に接点はなかった。初めて話したのは、小児科入局後。共にフレマンを NICU から始めることになった。武田先生は器用だった。すぐに 24G、さらに 22G でルート確保ができ、挿管もできた。その頃、私は小児科を辞めたくて当時、唯一あったナースステーションの天窓から外を眺めていた。私が小児科継続を決めてからは、武田君はずっと、ライバルだった。仕事、運動、遊び全てで。当時流行っていたテニスでは、お互いフレマンの仕事後で疲れ切っているのに、意地でも自分から止めることはしなかった。入局 2 年目、神奈川 4 医科大学小児科野球（北里、東海、聖マリ、横浜市）で北里が優勝した。武田君が投手、私が捕手。とてもキャッチャーフライが多く、好捕した私が MVP になれたのは武田君の球にキレがあったおかげだ。同期の結婚式で、少年隊の“君だけに”を二人で歌ったこともあった。仕事もお互いしっかりやったと思う。楽しい研修医時代、厳しいチーフ時代（5 年目）を切磋琢磨し、専門は武田君が循環器、私が呼吸器。梅原実先生の影響もあり共に PICU 設立を目指した。私は、6 年目から 5 年間大学を離れた。この間に、PICU 構想を立ち上げ、病院と折衝し、試算トライアルを行う基礎を創ったのが武田君だった。入局 10 年目、5 年ぶりに大学に復帰した私は、その先頭に担ぎ出され翌 2001 年に PICU を開設した。私が PICU に没頭している間に、武田君は出向され 2004 年に、“たけだこどもクリニック”を開業された。当時からのこの件について武田先生としっかり話をしたことがなかった。改めてお礼を言いたい。「武田君、本当にありがとう！」武田先生は、大学を離れてからも刺激を与え続けてくれた。医師会での司会、学会での質問、そして某 FM ラジオ局で「子どもの病気」の概説と質問対応をしていた。対応はいつも冷静で的確だった。一度患者さんの対応で武田君に褒められたことがあった。声は笑っていなかった。悔しかったのかな。逆に本当に怒っている時、彼は笑いながら目を丸くして口をとがらせる癖があった。橋本聖子のように。

以前の私は武田君に気を使っていた。ずっと武田君にかなわないと思っていたからだ。でも最近、武田君も逆の同じことを思っていたと聞かされた。嬉しかった。私が開業したころから、二人で気兼ねなく話をするようになった。勿論、昔から気持ちは通じ合っていた。二人だけでは本音で上手く話せなくても私達には、結婚式で歌を送った栗原潔先生という強烈な同期(兄貴)がいたからだ。よく 3 人で話し、飲みに行ったことを今もよく覚えている。この飲み会は、3 人がチーフだった時のフレマン 3 人娘を加え今も続いている。私にとり唯一無二の友でありライバルである“武田信裕君”、本当にありがとう。また、飲もう。

相模原協同病院の近況報告

相模原協同病院

鈿持 学(22 回生)



相模原協同病院（新病院）外観



相模原協同病院は 2021 年 1 月に橋本駅前から、現在の橋本台に移転しました。橋本駅から西へ車で約 10 分、旧職業能力開発総合大学の跡地の広大な土地にあります。病床数は 400 床、標榜科 35 科、常勤医師数 125 人（2022 年 4 月時点）となりました。当院は、1945 年に当時、無医村だったこの地域に設立され約 80 年の歴史があります。今回は、高度急性期医療の対応を念頭に移転しています。その中で、小児科は一般病床 14 床と、NICU 6 床で運営しています。私は、中村信也先生の後任として、新病院への移転とともに出向しています。当時は、新型コロナウイ

ルス感染症流行の第 3 波の最中で、かつクラスターが発生最中でした。元旦から出勤し、右も左も分からない状態で物品の搬送を手伝ったのを思い出します。

現在のメンバーは、小児科部長の木村純人先生、横内暁子先生、藤本まゆ先生、紺野寿先生、専攻医の中村龍太先生に加え、北里大学総合内科からのローテートで江藤謙吾先生とで運営しています。臨床面では、地域支援病院の指定を受け近隣の先生方から多くの患者様をご紹介いただいています（令和 3 年度の紹介患者総数は 937 例）。また、周産期部門も充実させ、来年度の地域周産期センター取得を目指しています。さらに、病児保育室に加え、令和 3 年からは産後ケア入院を開始しました。疾病医療のみではなく、地域の方々が安心して出産、育児ができる環境の提供を目指しています。

教育面では、日本小児科学会の専門医制度研修施設として、次世代を担う小児科医の育成を行っています。昨年度は専攻医の直宮響平先生に学会発表を行ってもらっています。そして、臨床研修指定病院としては毎年 10 人の初期研修医が就職しています。来年度のマッチングは約 7 倍の競争率で人気の病院になっています。現在、小児科は必修科目になっています。臨床研修を通じて同門の先輩方から受け継いだマインドを持った医師を、一人でも多く育ててい



NICU 病棟

小児科は、経営面では苦戦が続いていますが、子供たちの安心・安全を守っていくためには当院の小児2次医療機関の中核としての機能を保つことが重要と考えています。先輩方から受け継いだ、このバトンを皆でつないでいきたいと思えます。今後とも、ご指導、ご鞭撻頂けますようお願い致します。



左から、中村龍太先生、筆者、藤本まゆ先生、紺野寿先生、江藤謙吾先生、木村純人先生

大学病院臨床報告 シリーズ化しています。今号は腎臓班からの報告です

北里大学病院周産母子成育医療センター 小児腎臓班より



北里大学医学部 救命救急医学/小児科学 助教

昆伸也 (30 回生)

◆はじめに

北里大学小児科 小児腎臓班は、開院当時より酒井先生、河西先生、飯高先生、市川先生、石館先生をはじめ多くの諸先輩方が築きあげてきたグループです。現在は、石倉教授、奥田先生、横内先生（相模原協同病院出向中）、菊永先生と私の5名が在籍しており、非常勤として河西先生、守屋先生にご協力を頂いております。腎臓班について紹介させていただきます。

◆臨床について

小児腎疾患、電解質異常、高血圧の患者さんを対象とし、夜尿、学校検尿や健診で発見された血尿・蛋白尿、尿路感染症、ネフローゼ症候群、急性腎炎、慢性腎炎、先天性腎尿路異常、電解質異常、高血圧、透析（血液透析、腹膜透析）・腎移植を含む腎不全まで、幅広い疾患の診断・治療を行っています。その他、全身性疾患に伴う腎障害については小児科各診療グループと、急性血液浄化については小児集中治療室や血液浄化センターと、腎尿路疾患や腎移植については泌尿器科と、各々連携して診療しています。

◆移行期医療について

小児科全体として移行ワーキンググループを立上げ、患者さん自身のヘルスリテラシーの獲得や適切な医療の提供（成人診療への転科など）を目標に取り組んでおります。ワーキンググループには当院腎臓内科教授の竹内先生にもご参加頂き、小児慢性腎疾患患者さんのスムーズな成人移行の環境整備に努めております。

◆研究について

国内外の研究結果を取り入れながら、根拠に基づいた最新、最良の医療を実践しており、以下のよう
な研究について取り組んでおります。

- ・厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）「小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の発展（20FC1028）」 研究班のホームページ (<http://pckd.jp.org/>)
- ・日本小児 CKD コホート研究（追跡調査）
- ・小児初発特発性ネフローゼ症候群の高血圧を対象としたアムロジピンの降圧効果に関する非盲検ランダム化比較試験
- ・小児腹膜透析の長時間貯留におけるイコデキストリン透析液の 2.5%糖濃度透析液に対する優越性試験
- ・本邦小児における超音波断層法による腎長径の基準値の作成 など

◆最後に

我々腎臓班は、御家族のみならず患児の病気に対する理解が高まり、将来的な患児の精神的成長や自立が望めるように努めてまいります。同窓会の先生方に引き続きご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

【腎生検の様子】 ※右；奥田先生、左；筆者



昇任/称号付与された先生方より

准教授就任ご挨拶



北里大学医学部小児科学 准教授

野々田 豊 (26 回生)

このたび 2022 年 11 月より准教授を拝命いたしました野々田豊です。就任のご挨拶をさせていただくとともに、これまでご指導いただいた同窓会の先生方に深く感謝を申し上げます。

私は現在、小児神経疾患の診療にあたりるとともに、周産母子成育医療センター小児在宅支援部門「あすばら」の部門長として活動しています。「あすばら」は、医療的ケアを必要とする重症心身障害児の在宅療養を支援する病棟として 2015 年 5 月に東病院に開設され、2020 年 4 月より東病院の閉院に伴い大学病院西館に移転しました。急性期治療後に医療的ケアが必要となった児が在宅への準備をするための中間病床として、また、すでに在宅で生活している児のレスパイト病床としての機能を持ち合わせており、15 床と小さな病棟ではありますが、看護師、薬剤師、保育士、社会福祉士、理学療法士、臨床工学士など、多職種によるチーム医療が行われています。これにより、それまで退院できずに長期入院を余儀なくされていた人工呼吸器などの高度な医療的ケアが必要とする児が自宅で過ごせるようになりました。

このような仕事をする中で、最近特に多職種との連携の重要性を感じるようになりました。自分が病棟医時代に上の先生から、「病棟内だけでなく、病院の中にどんな部署があって、そこにどんな人がいて、どんな仕事をしているのかを知らなさい」と教わりましたが、今になってこの重要性を実感しているところです。これから他の診療科や様々な部署と関わる機会が増えてくると思いますが、大学病院の中の小児科として、広い視野を持った医師になりたいと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



診療准教授を拝命して



北里大学医学部小児科学 診療准教授

北里大学大村智記念研究所 ウイルス感染制御学

伊藤 尚志(27 回生)

同窓会の先生方、日頃よりお世話になっております。

この度、診療准教授を拝命いたしました。どうぞよろしく願いいたします。

ちょうど20年前に北里大学小児科へ入局しました。研修医・病棟医時代は、野々田豊先生、安藤寿先生はじめ同世代の先生たちと昼夜問わず病院中を走り回っていました。極めて実践的な北里の診療の中で、小児科医としての足腰を鍛えていただいたと思います。その後、野渡正彦先生のもと新生児一直線だったはずが、なぜか大学院は慶応義塾大学薬理学(安井正人先生)で基礎研究を学び、相模原に戻ったと思ったら2年後には感染症の基礎研究をしていました。あの当時、ご相談に乗ってくださった石館武夫先生には大変お世話になりました。北里大学生命科学研究所(現大村智記念研究所)では、中山哲夫先生のもとウイルス感染症やワクチン基礎研究を学び、現在も継続しております。2019年に相模原へ戻り、石倉健司先生のもと感染症を中心に臨床や研究に没頭しております。

この4月から北里大学病院感染管理室を兼任しています。新型コロナウイルス対応だけでなく、成人を含む感染症患者・抗菌薬管理、院内感染対策、さらに各種加算処理、他施設との連絡会、病院機能評価対応など、業務は多岐にわたります。他科の先生や様々な業種のスタッフから教えていただくことが多く、大変勉強になります。北里小児科のため、北里大学病院のため自分になにができるのか、しっかり考えて精進いたします。

様々なチャンスを与えてくださる石倉健司先生、どのような状況でも叱咤激励し支えてくださる横田行史先生、坂東由紀先生に感謝申し上げます。同窓会小児科の先輩方、同世代の仲間たち、若手の先生方とともに、今後の北里小児科の発展に少しでも貢献できれば幸いです。

最後に、人生の節目で様々な道筋と可能性を示してくださった仁志田博司先生に感謝申し上げます。たくさん遊んでいただきありがとうございました。お言葉通り、プラプラしないでしっかり働きます。



三須 陽子（16回生）

内藤先生からご連絡をいただき、投稿することにいたしました。きっかけは神奈川医師会報で私の書いたバイオリンについての記事を読んでとのことでした。医師会報に載ったということで多くの神奈川県医師会に所属されている先生方のお目には触れたのではないかと思います。また視点を少し変えてまた同じネタで失礼いたします。

北里大学医学部を卒業し、臨床実習のときに子供の生命力に魅了されて、小児科医になることを決意し、お世話になりました。辛く厳しい毎日でしたが、今の私の開業生活に必要な不可欠な基礎を叩き込んでいただいたと感謝しております。

私が大学病院を退職する決断ができたのは、幼少期からの夢の実現にありました。私は小学校2年生のときにオーケストラのバイオリンに憧れ、父からクリスマスプレゼントとして、バイオリンをプレゼントされました。そのときからずっといつかオーケストラに入団し、交響曲を演奏する側になりたいと思いつけておりました。なかなか機会に恵まれず、小児科医としての忙しい日々を送るようになり、クラシック音楽とも無縁な生活になっていました。半ばこんな生活から逃げるように、大学院に進学し、少し時間にゆとりができたとき、ふと音楽のことを思い出しました。きっかけは大学院のときの研究助手さんのお父様が鎌倉市民交響楽団のコントラバスを演奏されていると聞いたことでした。久しく、楽器すらあけていなかったのも、お願いして、メンテナンスをしてもらったのですが、せっかくなので、藤沢市民交響楽団に連絡をとったところ、急遽、入団することになったのです。それからは、毎週末の練習が楽しくて、仕事のつらいことなど、音楽を演奏しているときは完璧に忘れることができました。気持ちもリフレッシュでき、医学と音楽では使っている脳が違うのだなとつくづく思いました。ただ、NICUのスタッフとして、オケの練習を継続することは難しく、また藤沢から相模原までの日々の通勤はとてもハードでした。大学院時代に、バイトとしてお世話になった、門井先生や小口先生のクリニックでの経験から、私がお役にたてるのは大病院だけではないのではと思えるようになり、退職を決意いたしました。それからは、開業医



を続けながら、毎週末のオケの練習に励んでおります（同窓会に参加できない最大の理由はここにあります）。コロナの影響で、一時、演奏会の中止が続きましたが、今では感染対策をしなが

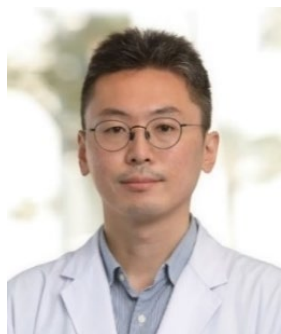
ら、再びオペラや定期演奏会が行えるようになりました。皆さんも、音楽にご興味がありましたら、ぜひ、藤沢まで足をお運びください。三須こどもクリニックのHPには藤沢市民交響楽団のHPもリンクしています。結構本格的なオーケストラです。

オーケストラでの楽器の演奏は、楽譜を読み、そこからどんな音にすればよいか想像し、指を動かして音程をとり、耳で周囲の音とのバランスを考え、次の音を紡ぐ、その音に感情を込めるなど、短期間に様々な作業をします。これからのボケ防止にも良いですし、感情を音にぶつけることができるので、ストレス発散にもなります。楽器演奏、仕事のお忙しい方にこそ、お勧めいたします。アマチュア音楽家の良いところは、楽しければ多少下手でもある程度許される（というわけにもいかないのですが）ところです。これからももう少し仕事と音楽の両立を頑張りたいと思っています。

2022 年度医局長報告

医学部小児科学 診療講師

医局長 橋田 一輝 (28 回生)



医局長になり、3年がすぎました。新型コロナウイルス感染はまだ落ち着きを見せず、大きな波となって流行を繰り返しております。ただ当初よりもその対応には慣れてきた感があります。ただまだ隔離が必要であり、同期間の医局員の欠員は大学の診療体制に影響を与えることがしばしばあります。引き続き、感染対策に留意しながら診療を続けたいと思います。至らぬところもあるやもしれませんが、皆様の御協力を頂き感謝を申し上げます。今後とも、御指導、御鞭撻を頂ければ幸甚に存じます。

<医局員構成>

大学内において、2022年11月1日付けで野々田豊先生が准教授へ、2022年12月1日付けで伊藤尚志先生が診療准教授へ昇任しました。大学の院内スタッフは石倉健司主任教授、中西秀彦教授、以下准教授2名、診療准教授1名、診療講師6名、助教10名、病棟医20名（2022年12月1日付け）の体制となっております。院外人事につきましては関連病院に15名が配置されております。新入局員が徐々に増えつつあり、診療とともに教育につきましても同様に、皆様の御協力を頂けていること感謝申し上げます。

<留学>

昨年度まで田村佑平先生が国立成育医療研究センターへ国内留学されておりました。今年度からは金子雅紀先生が神奈川県立こども医療センターへ留学されております。また留学後の御活躍を期待するとともに、留学先では是非頑張りたいと思います。

また、今年は10月からマレーシア クアラルンプール・ツンク・アジサ病院より Tan Sun Mee 先生が1年間の御予定でNICU研修留学のためいらしております。これをきっかけに海外へも視点をむけられるといいと思っています。

<新入職、および退職>

本年度の入局者は、飯塚泉 先生、大寄芳江先生、安井聡太 先生、渡邊萌 先生です。小児科専攻医として当地域の小児医療において活躍しており、学会発表なども重ね日々の成長が頼もしくもあります。皆様お知りおき頂ければ幸いです。

<病棟・外来診療体制> 敬称略

周産母子成育医療センター

センター長：石倉健司

病棟診療担当：NICU 主任 大岡麻理、PICU 峰尾恵梨、6E 病棟主任 本田崇

小児循環器部門長：平田陽一郎

小児在宅支援部門：センター長：野々田豊

外来主任：北川篤史

<小児科専門プログラム専攻医制度>

日本専門医機構の認定のもと、小児科専門医研修はプログラム制となりました。このことにより、後期研修中の出向研修の期間と時期、出向先が研修前に決まることとなり、全体の人事の組み立てが幾重にも重なるパズルのようで四苦八苦しております。よい研修体制を作ることで継続した医療の提供ができるようになると思います。何かお気づきの点がございましたらお声掛け頂きますととても助かります。

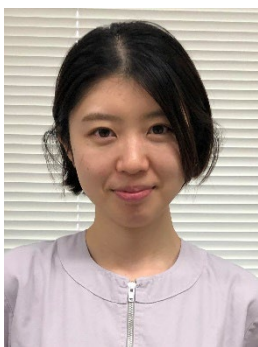
<医局長より>

働き方改革の施行が迫ってきております。いかに継続した医療が展開できるか、その中で医療の質の維持と向上、指導と教育体制の構築が急務と思います。具体的なことについては皆様も御存じの通りと思いますが、要は時間の使い方をどうするか、ということなのだとの印象ももっております。もともと時間は限られたものではあるものの、人によってはあまりにも仕事に傾注しすぎていたこともあるかと思えます。これをきっかけに医師としての生き方、働き方を見つめ直し、全体としての医療の継続を考えるきっかけになればいいと考えております。

新入会員

北里大学病院 後期研修医 1年

飯塚 泉 (45 回生)



今年度より北里大学病院小児科に入局いたしました飯塚泉と申します。私は2020年に北里大学を卒業し、当院で初期研修を行いました。初期研修の際に、先生方から熱心なご指導をいただいたことで、当院での研修に魅力を感じ、入局させて頂きました。

入局し半年が過ぎましたが、至らない点が多々あり、上級医の先生方やコメディカルのスタッフの方々に支えられているなど痛感しております。ご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



北里大学病院 後期研修医 1年

大寄芳衣 (45 回生)

2022 年 4 月より北里大学病院小児科に入局致しました、大寄芳衣(おおさき よしえ)と申します。2020 年に北里大学医学部を卒業し、初期研修も当院で行いました。ポリクリ、初期研修では、先生方には熱心にご指導いただき、小児科の魅力をたくさん教えていただきました。また、カンファなどでも活発に意見を交わす雰囲気が印象的でした。

父が小学校教師、母が保育士の家庭で、5 歳ずつ年の離れた姉、弟に挟まれながら育ちました。両親の職業柄、こどもに関わる仕事に就きたいと漠然と考えておりました。しかし、教職のように集団のなかのこどもを対象にするのではなく、一人一人の困りごとに向き合いたいという気持ちが強くなり、小児科医を目指し現在に至ります。

入局して半年が過ぎ、自分の未熟さを痛感する毎日ですが、先生方には忙しい業務のなかご指導いただき充実した日々を過ごしています。こどもに寄り添い、その後のより良い人生を送る手助けができるような小児科医になれるよう精進していきます。至らぬ点ばかりですが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



北里大学病院 後期研修医 1年

安井 聡太

北里大学小児科の皆様、初めまして 2022 年度より専攻医として入局を致しました安井聡太と申します。この場をおかりして簡単ではございますが自己紹介とご挨拶をさせていただきます。神奈川県逗子市出身で中学校・高校は東京で過ごし、大学はハンガリー国立センメルweis 大学医学部を卒業いたしました。EU 医師免許取得後は日本で改めて医師免許を取得し、

湘南藤沢徳洲会病院での初期研修を終えました。

子どもは日本の宝であり全ての子どもは楽しく生活する権利があると考え、病気で困っている子どもへ少しでもなんとかお手伝いできればと考え小児科医の道を選択いたしました。また当局の先生方の雰囲気の良さ・情熱、大学病院の施設設備のレベルの高さに惹かれて入局させていただきました。

入局してから 8 ヶ月あまりが経過いたしました。周りからはストレス大丈夫かと心配されましたが、私はストレスがかかると逆に過食になるので、現在はストレスフリーどころかとても楽しく過ごしていると実感しております。仕事にはとてもやりがいを感じ、小児科医になってよかったと心から思っております。

まだまだ若輩者でありご迷惑をお掛けすることがあると思いますが、何卒ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



北里大学病院 後期研修医 1年

渡邊 萌 (45回生)

今年度より北里大学小児科に入局いたしました、渡邊萌と申します。出身は群馬県で、高校まで地元で過ごしておりました。2020年に北里大学を卒業し、初期臨床研修は順天堂大学附属練馬病院で行いました。小児科医を志した入口は、子どもが好きだからという単純な理由でした。また妹が幼少期に数ヶ月入院したことがあり、その体験からも幼いながらも小児科医に憧れを持っていました。様々な科をローテートする中でも、未来ある子どもたちへの診療に携わりたいと思い、小児科への入局を決めました。初期臨床研修は二次救急医療機関でしたので、こちらにきてから患者さんの重症度や、多岐に渡る希少疾患に日々驚いております。一般病棟、NICU、PICUいずれも充実しており、入局してから今日まであっという間に感じております。まだまだ不慣れなことが多く自分の未熟さを痛感する毎日ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

会員近況報告

(年度初めの名簿記載事項確認の際に併せてお知らせいただいたものです。)

(50音順に掲載しております)

石井 正浩 横浜市鶴見区で開業して7月で4年が経ちます。全く知らない土地での開業でしたが何とか元気に過ごしています。今年は小児のコロナが流行し、毎日HER-SYSの入力しています。来年こそはコロナが収束し同窓会で皆様とお会いできることを願っています。

門井 伸暁 2022年3月末で愛育こどもクリニックを委譲して引退いたしました。25年間大過なく医業を続けられたのも、ひとえに北里大学小児科同窓会の諸先生のご支援のお陰と感謝いたしております。今後は、サイエンスコミュニケーションの勉強やサッカードクターとしてアンチドーピング活動を継続したいと考えております。今後とも宜しく願い申し上げます。

中館 尚也 ご無沙汰しています。国立成育医療研究センターを定年退職後は、松浦信夫先生、原田正平先生に続きまして、聖徳大学に籍を置き、学生教育に携っています。

西本 方宣 2020.3月に苫小牧市の方安庵青雲町クリニックを閉院。引退してそのままカンボジアでこどもの健康維持活動を考えていましたが、種々の理由で、なぜか、広島県呉市安浦町女子畑133の(医)西本会 安浦病院で理事長代行として経営、コロナ対策、精神科患者のプライマリーケア全般を担当させられています。研修医時代、なぜか特に3Cばかりさせられたため、乳児、こどもに飢えて暮らしています。食欲以上に飢えている自分が不思議です。なので現住所の、(財)環境教育医学研究所を2022.3に設立。代表理事です。目途はアジアの子供の健康維持です。ご興味あるかたはご連絡をメールにてお願いします。

原田 正平 2022年3月末に6年間勤めた聖徳大学（千葉県松戸市）を退職し、4月から重症心身障害児者施設の秋津療育園に病棟医として働き始めています。平均在園年数が30年を超え、平均年齢も50歳を超えていますが、医療的対応が必要な入所者を約50名担当していますので、日々対応を迫られる出来事が起こり、「重症心身障害児・者医療ハンドブック」や「研修医になったら必ず〇〇」といった本を急いで購入し、新人医師のような気持ちで過ごしています。

総会議事録

令和4年度も書面による総会となりました。

会員数 242名 （総会成立要件：会員数の1/3=81名）81名総会議決承認要件：会員数の過半数⇒122名

結果 承認数 107通 委任状数 23通 過半数の122名を超えましたので、議事はすべて承認されました。

【報告事項】

2021年度収支報告（会費口）

2021年度収支決算報告書(2021年4月1日～2022年3月31日)			
収入の部		支出の部	
会費(2021年度)	590,000	名簿発行費用	5,035
会費(過年度)	250,000	会報発行費用	44,250
会費(次年度以降)	5,000	郵便振替・振込み手数料	18,807
利息	6	郵送・通信費	67,870
前年度繰越金	4,419,829	慶弔費	16,500
		雑費	14,585
		人件費(2020年度実績分)	908,000
		人件費(2021年度分)	1,166,626
		次年度繰越金	3,023,162
合計	5,264,835	合計	5,264,835

小児科同窓会基金 2021年度収支報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

収入		支出	
前年度繰越金	5,589,777	若手支援(学会参加費・旅費等)	215,162
寄付金	320,000	〃(論文校正料)	6,485
		図書	111,498
		HP修正・追加ほか	562,630
		リクルート関連経費	271,365
		物品費	300,080
		論文賞	146,130
収入合計	5,909,777	支出合計	1,613,350

次年度繰越額 4,296,427

【事業報告】

2021年度事業報告

名簿発行 2021年10月

会報発行(2022年1月発行 Vol.26)

2021年4月 理事会開催 zoom 会議

2021年6月 理事会開催 zoom 会議

6月 理事・評議員会開催 zoom 会議

2021年 12月 理事会メール審議

2021年 12月 次期理事についての立候補募集

2022年 1月 総会（書面開催）

2022年 3月 理事会開催 zoom 会議

新入会員：2021年 4月 1日付（敬称略）

太田まり・新貝龍太郎・鈴木大輝・直宮響平・中村龍太・中里健・渡邊万葉

2021年 7月 1日付 菊永佳織

退会会員：阿部泰子・沼澤環

【審議事項】

2022年度予算案(2022年4月1日～2023年3月31日)			
収入の部		支出の部	
	予算額		予算額
会費(過年度含む)	850,000	名簿発行費用	5,000
利息	8	会報発行費用	50,000
前年度繰越金	3,023,162	郵便・通信費	70,000
		郵便振替手数料	19,000
		慶弔費	35,000
		雑費	20,000
		人件費(2021年度実績分)	-
		次年度繰越金	3,674,170
合 計	3,873,170	合 計	3,873,170

【事業計画案】

<2022年度事業計画>

1. 名簿発行（2022年 7月 1日）
2. 会報発行（2022年 12月 発行予定 Vol.27）
3. 入退会承認事項（敬称略）
新入会員：2022年 4月 1日付
飯塚泉・大寄芳衣・安井聡太・渡邊萌
退会会員；大谷清孝
4. 2022年 5月 会長選出選挙（理事会内）
5月 12日 理事・評議員会 zoom 会議開催
7月 新評議員 承認
8月 総会（書面審議）
5. 名簿の在り方検討（総務・広報）
6. 同窓会 HP の整備（広報・財務）
7. 会員ネットワークづくりについて（総務・広報）
8. 同窓会基金運営方針の整備（基金）

2022年度評議員一覧（敬称略）

重任：眞銅太郎・箕浦克則・今井純好・高田史男・野渡正彦・栗原潔・田久保憲行・劔持学・緒方昌平

新任：佐藤雅彦・守屋俊介・中畑弥生・平田陽一郎・木村純人・野々田豊・伊藤尚志・本田崇

事務局より お知らせ

★令和4年度小児科同窓会総会について

コロナ禍が続いており、同窓会総会は昨年同様、書面による総会となりました。
令和5年度の総会については未定です。

★お願い ～メールアドレスのご登録をお願いします。

通信費の削減のため、また迅速な連絡方法として、同窓会事務局からの連絡をメール配信へ移行しております。現在はメールアドレスのご登録がない方はfax または郵便にて連絡をさせていただきます。この半年間で小児科同窓会からメールが届いていない方は事務局にてアドレスを把握できていないので、以下のアドレスまでメールをいただけますようお願い申し上げます。
あて先：kpodoso@med.kitasato-u.ac.jp 北里大学小児科同窓会事務局 澤木

★小児科同窓会基金へのご寄付も引き続きお願いしております。

⇒寄付控除も引き続き受けられます。

申請用紙が必要な方は事務局までメールまたはfaxにてご一報ください。申込用紙をお送りいたします。改めまして来月以降、寄付に関するお手紙も発送予定です。

mail：kpodoso@med.kitasato-u.ac.jp

Fax：042-778-9726 北里大学小児科同窓会事務局 澤木宛にお願いします

編集後記

昨年、北里大学小児科同窓会は藤野新会長と共に新メンバーの理事・評議員で新たな船出を致しました。未だ新型コロナ禍の終息の見通しが立たない中、ウクライナの問題などもあり、2022年の『今年の漢字は「戦」』でした。不自由が強いられる日常ですが、本同窓会初代会長 坂上正道先生が、自由について「freedom」と「liberty」の二つの違いを折に触れてお話しなさっていたことを思い出しました。「個人の自由は尊重されなければならないのは当然ですが、好き勝手やっても良いわけではなく、ルールに則った自由が大切です」との事でした。

先輩諸兄諸姉が積み重ねてきた50有余年の歴史が北里大学小児科同窓会の礎になっている事を忘れていけません。『少しのことにも、先達はあらまほしき事なり』です。さらに、若い会員の先生方の溢れるエネルギーが加わる事により、同窓会が次のstageへ進化していくでしょう。年代、世代を超えたそれぞれの持ち味を存分に生かした活気ある同窓会活動にするために、新メンバーとなった広報委員会では、会報や名簿のPDF化やメールマガジン発行などを企画検討中です。会員相互の交流の場として「同総会会報」が活用出来るように、会員の皆様の原稿（自由投稿）をお待ちしております。（梅原）

北里大学小児科同窓会事務局

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里 1-15-1（北里大学病院小児科外来CR内）

TEL：042-778-8920（直通）

FAX：042-778-9726

Mail：kpodoso@med.kitasato-u.ac.jp